

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2023年 4月 1日

殿

中国菱光株式会社 広島工場
広島市南区出島二丁目22番66号
TEL:082-251-9211 FAX:082-255-3361

配合計画者名 岩本 春美

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月1日～5月31日,10月1日～12月10日,標準配合。左記以外の期間は備考欄に記述。
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		普通	24	8	40
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	— °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m ³
	空気量	4.5 %		流動化後のスランプ増大量	— cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	広島県呉市蒲刈町田戸字楊畑	A	化学法	—	2.85	—	2.54	—
	②	砕砂	大分県津久見市上青江2426-1	A	モルタルバー法	5以下	2.85	—	2.62	7.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	大分県津久見市上青江2426-1	A	モルタルバー法	20～5	58.0	—	2.70	1.5±1.0
	②	砕石	広島県呉市蒲刈町向	A	化学法	40～20	60.0	—	2.73	1.0±1.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローック SV10L		種類	A E減水剤標準形 I種		Na ₂ Oeq %	0.8		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物量	①	0.003 %	②	0.001 %	水の区分	上水道水・上澄水		目標スランプ	固形分率	— %
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—	安定化スラッジ水の使用の有・無					

配合表 [上段:質量 kg/m³ 下段:容積 L/m³]

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264 87	—	154	394 155	403 154	—	548 203	551 202	—	1.33	—
水セメント比		58.5 %		水結合材比		— %		細骨材率		43.3 %

備考 JIS該当品

[細骨材混合比率] ①:②=50:50

[粗骨材混合比率] ①:②=50:50

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更。

夏期 6月1日～9月30日 +20% 冬期 12月11日～2月29日 -15%

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング°又はスラング°フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
標準偏差	σ	当工場の実績により			3.00 N/mm ²
配合強度	m	$m1 = 0.85 \times S_L + 3.0 \times \sigma = 29.4$ $m2 = S_L + 2.0 \times \sigma = 30.0$ 上値より			$m1 = 29.4$ $m2 = 30.0$ 30.0 N/mm ²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -12.48 + 25.00 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{25.00}{30.0 + 12.48} \times 100 = 58.5$			58.5 %
単位水量	W	当工場の実績により			154 kg/m ³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{154}{58.5} \times 100 = 264$			264 kg/m ³
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 264 \div 3.04 = 87$			87 L/m ³
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 L/m ³
単位粗骨材量	Gv	当工場の実績により			405 L/m ³
	Gv1	① $Gv1 = Gv \times 50(\%) = 203$			203 L/m ³
	Gv2	② $Gv2 = Gv \times 50(\%) = 202$			202 L/m ³
	G1	① $G1 = Gv1 \times \text{密度}(2.70) = 548$			548 kg/m ³
	G2	② $G2 = Gv2 \times \text{密度}(2.73) = 551$			551 kg/m ³
単位細骨材量	Sv	$Sv = \text{設計容積} - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - (154 + 87 + 405 + 45) = 309$			309 L/m ³
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 50(\%) = 155$			155 L/m ³
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 50(\%) = 154$			154 L/m ³
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.54) = 394$			394 kg/m ³
	S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.62) = 403$			403 kg/m ³
細骨材率	S/a	$S/a = \frac{Sv}{Sv + Gv} \times 100 = \frac{309}{309 + 405} \times 100 = 43.3$			43.3 %
単位混和剤量	Ad	$Ad = C \times \text{添加率}(\%) = 264 \times 0.5035(\%) = 1.33$			1.33 kg/m ³

配合表 [上段:質量 kg/m³ 下段:容積 L/m³]

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	—	154	394	403	—	548	551	—	1.33	—
87	—	—	155	154	—	203	202	—	—	—
水セメント比		58.5 %		水結合材比		— %		細骨材率		43.3 %

備考 JIS該当品